



理事長交代のお知らせ

理事長就任のごあいさつ

理事長 藤井 忠子



私が初めてRASAの活動に参加したのは、22年前フィリピンのミンドロ島の古い教会敷地に、平屋4教室校舎の建設活動でした。そこは首都マニラと全く違う不便な貧しい田舎で、教会内にはスコットランド出身の在籍長い神父が、移動生活する山岳民族マンギャンを平地へ定住させ、農業や教育の指導をされていたのです。ここでは驚くことばかり。夕立時は着たまま喜んで体を洗う子供達のこと！ガレージや教会内に充てられた教室の黒板に向かって子供達が真剣に学んでいる姿！その学童たちに向かって同年位の児童がパンを売りに来て、日銭を稼いでいたのは、日本では想像もつかないこと！

学生ボランティア達は、炎天下で現地のワーカーに倣って全く機械を使わない労働に精を出しながら、幾つもの建設作業を体験しました。彼らは、少しずつ出来上がってくる建物を見て喜ぶ親や児童の姿に、疲れた様子は皆無のようでした。中には、初めは「何でこんな仕事をしに来たのか」と動こうとすらしなかった学生達も、日毎に変化し、自分から汗だくになって生き生きとした笑顔で働く姿勢へと自ら変化していきました。自分で費用を準備して参加し、体験によって「人生で大切なこと」を気付いたのです！重労働でも喜びをもって共感して働き、人の役に立つ喜びを味わったのです。フィリピンの「貧しく

とも互いに気遣い、助け合う生き方」今の効率重視の豊かになった日本では殆ど見られなくなった大切な体験でした。

しかし、滞在中に全員が下痢や流行り風邪で、入院者も出てパニックが起きました。でも、みんなの協力と励ましで乗り切れました。これ等は指導によって解決できる！と気付き、帰途の機内で決心したのです。「この活動に日本の若者が参加するように、これからの私のエネルギーを注ごう！」と。現地NGOに詳細な解決策「①受入ホストの指導—安全な飲料水、医療受入、警護教育の事前徹底 ②活動責任者シーランド神父が仕事で現地不在になる間は日本人責任者がボランティアの全責任を持つ」を書いた手紙を出しました。

その実現に向け翌年から、フィリピンで3年間の事業経験を持つ主人が引率責任者として参加し、活動拡大発展—NPO法人化、昨年度に認定NPO法人の継続更新—に向けました。私はフィリピンの実態調査に行き、現地責任者も設置して食品配付を拡大、現在に至っています。RASAの活動の目的は、**現地への支援**(学校建設、奨学金、給食、食品配付)と**日本での社会貢献**(前述の通り若者の成長支援)です。南山大学や椋山女学園大学からボランティア参加へ賛同いただき、全国で参加者は延750人超となりました。

活動の継続と充実を目指し、高齢の主人に代わり、力不足でございますが、理事長を務めさせていただきますことになりました。何卒ご理解・ご支援をお願い申し上げます。

理事長退任のごあいさつ

理事 藤井 典夫

シーランド神父からの要請を受け、理事長を継続してまいりました。当団体は、資金的には常に苦しんでまいりました。今日の状況もこの点は同じです。助成金を頂けるとなれば、全力で応募したものです。その姿勢は今も変わりありません。

単なる活動団体だから資金不足なのか、それなら公式なNPO団体を目指そうと資格獲得に邁進いた

しました。でも、寄付金はあまり増えませんでした。単なるNPO団体だからか？と思い、もっと条件も厳しい認定NPOならばと考え、翌年の受験資格を待つて厳しい認定の資格に挑戦し、見事に合格いたしました。

確かに団体の頭に認定という文字が付くことは、大事なことでしょう。しかし、最後の決め手は設定した目標に向かって、団体の活動がコツコツと歩んでいる姿をお見せする事ではないでしょうか。

私の後任の理事長にも、私が頂きました以上のご支援をいただきますようお願いをいたします。

第15回定時総会のご報告

令和6年6月15日(土)にカトリック平針教会に於いて開催されました「第15回定時総会」は会員の皆様のご協力により、滞りなく終了いたしました。理事長以下役員6名と会員2名出席の下、令和5年度の事業と決算の報告及び令和6年度の事業計画及び活動予算、役員交代についての審議を行い、承認されましたことをご報告させていただきます。(令和5年度 活動計算書は次頁に掲載)

1. 令和5年度の事業報告

フィリピン国内で事業を展開しているため、急激で長期化する円安が大きな影響を与えました。

① 学校建設事業

円安と建設費の高騰により、当初計画が約800万円の平屋建て1棟 3教室(トイレ無)が、約1,000万円へと値上がりしました。資金不足のため、現地関係者と協議し、学校建設をキャンセルいたしました。

② ボランティア派遣事業

学校建設事業と栄養失調児救済事業(食品配付)の活動との並行開催を想定しており、令和5年度は中止いたしました。食品配付支援でのボランティア派遣を実施する方向で検討し、準備をしています。

③ 栄養失調児救済事業

「命の確保」として対象児童だけでなく、その家族も含めた人道的、より効果的な事業を継続しております。

支援対象:140人 学校が選出した栄養失調児
幼稚園～小学6年生(7学年)

配付食品:1回につき、米 5kg、缶詰 3～5缶、
卵 6個、粉ミルク 4袋、ヌードル 2袋

費用:1人40ペソ(約108円)/日

配付頻度:2週間毎(月2回)

2. 令和6年度の事業計画

大幅な円安の進行は、事業推進に未曾有の大きな試練を与えそうな状況であります。

① 学校建設事業

現地ブラカン州と共同した学校建設の取り込みを試みましたが、当方の財政難と現地の地方自治体が財政にゆとりがなく、断念しました。

② ボランティア派遣事業

栄養失調児救済事業である食品配付を対象として、派遣事業再開の準備に取り組んでいきます。

③ 栄養失調児救済事業

食品配付支援を継続してまいります。
年間予算 350万円程度

3. 役員交代

新理事長 藤井 忠子

理事 藤井 典夫

新理事 後藤 学

海外支援では円安の影響を大きく受けておりますが、皆様からのご支援で活動が継続できております。今後におきましても、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



定時総会の様子

就任のごあいさつ

理事 後藤 学



私は、大学卒業後、人のためになる仕事をしたいと思って地元自治体の職員となり、退職後の8年間にわたる市議の期間も含め、半世紀近く市民の生活向上に尽力してきました。

しかしその間、いつも気になっていたのは、発展途上国、とりわけ、かつて日本が侵略し多大な被害を強いたアジアの人たちの生活向上のためには、何もできていなかったことです。

3年ほど前、ひょんなことから、RASAのフィリピンでの学校建設や食糧支援などの活動を知り、迷うことなく入会させていただきました。

今後は理事として、いづらかでもRASAの活動のお役に立てばうれしく思います。

令和5年度「特定非営利活動に係る」活動計算書

令和5年4月1日～令和6年3月31日まで

単位：円

科目	前期決算	当期決算	備考
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入金収入	200,000	205,000	
1) 受取正会員会費	110,000	120,000	会員年会費
2) 受取賛助会員会費	90,000	85,000	〃
3) 受取団体会員会費	0	0	〃
2 事業収入	0	0	
1) ボランティア参加費	0	0	
3 補助金等収入	1,000,000	200,000	
1) 受取助成金	1,000,000	200,000	東海NGO活動助成金
2) 受取補助金	0	0	
4 寄付金収入	5,042,416	5,095,598	
1) 受取寄付金	5,042,416	5,095,598	
5 雑収入	3,392	691	
1) 受取利息	23	15	銀行利息
2) 雑収入	3,369	676	
経常収入合計	6,245,808	5,501,289	
II 経常支出の部			
1 事業費	3,863,393	4,446,410	
1) 学校建設事業	601,346	0	
2) 栄養障害児救済事業	3,262,047	4,446,410	
2 管理費	1,926,387	1,967,027	
1) 人件費	701,600	727,250	
給与 手当	701,600	727,250	パート勤務スタッフ1名雇用
2) その他経費	1,224,787	1,239,777	
会議費	8,301	10,657	会議関連費用
旅費交通費	18,802	28,155	運賃等
賄費	75,535	51,647	
通信運搬費	253,710	232,443	郵送料等
事務用品費	174,604	177,185	
修繕費	130,140	128,580	
水道光熱費	13,090	19,220	灯油
賃借料	444,000	458,000	
印刷製本費	27,086	44,473	
諸会費	24,304	35,152	
租税公課	24,679	27,519	収入印紙等
雑費	30,536	26,746	振込手数料等
経常支出合計	5,789,780	6,413,437	
経常収支差額	456,028	△912,148	
III 経常外収益			
経常外収益計	0	0	
IV 経常外費用			
1) 過年度損益修正損	0	0	
経常外費用計	0	0	
当期収支差額	456,028	△912,148	
前期繰越額	6,604,594	7,060,622	
次期繰越収支差額	7,060,622	6,148,474	

後藤理事と私の2人でサウスビル I 小学校を訪問してまいりました。目的は、次の2点です。

- ①食品配付契約の理事会決定事項に準じた更新
- ②来年2025年2月下旬に当校に学生ボランティア派遣の計画への打ち合わせや学校や地域の全面協力の依頼

5月7日9時出発から航空機4時間半、現地スタッフデニス宅着まで快適な10時間半でした。

8日午前、カブヤオ市の合同結婚式に参加しました。何と、50組ものカップルが1度に挙式。神父と市長の司式で、その家族も参加するので会場は溢れそうな人々と、祝福と拍手で盛り上がっていました。デニス氏が市長やバランガイ(市の行政区)責任者にRASAの紹介をしてくれ、一緒に記念撮影もしました。

午後は、デニス氏の案内で配付食品を仕入れに行く大型店へ。缶詰4種 合計560缶と粉ミルク6袋を140セット、ラーメンも140個購入しました。次に、米屋に行くと、米の値段が値上りのうえにさらにまた値上がり！デニス氏と驚きに言葉が出ませんでした。25Kg(1袋)を28袋 合計700kgの配達を依頼し、卵屋に、卵840個を10日朝に配達してもらうよう依頼をしました。これらの準備を月2回、配付の準備に年間24回の労を思うとデニス氏のご苦労が解りました。

翌日9日は、配付食品の分配作業です。手伝いに来た近所の5人と合計9人で、米を5kgずつ測り、他食品も詰めた袋が140袋できました。

翌日10日、デニス氏宅に卵屋の卵を載せてきた車とデニス氏の車 2台に配付食品140袋を載せて学校へ。デニス氏の車1台には配付食品は載りきらないため、毎回卵屋にご協力いただいています。



支援対象児童・家族と記念撮影

7時に学校に着くと、講堂には既に支援対象児童が家族と共に、私たちRASAを早朝から待ち構えていて歓迎してくれたので、感激しました。

校長先生の挨拶に続き、後藤氏、私が挨拶。2年生児童がこの日のために踊りを披露してくれました。途中で音楽が切れても一生懸命踊り、大拍手となったのです。食品を支援対象児童の席に運んで配りました。

次に、日本からの寄付品の文房具—ノート約200冊、絵かき帳、カード、ボールペン、クレヨン等を配りました。最後の約10人に渡す物が無くなりましたが、後で児童たちが分けあっていたのでほっとしました。



文房具に喜ぶ児童たち

この日は、校長先生との打ち合わせ日でもありました。その後、校長室で来年3月迄の食品配付契約は、RASA理事会決定通りの年間350万円で合意を得られました。大幅な円安で現地通貨受取の漸減が予想されますが、RASAの収支状況—物価高の傾向で寄付金の減少—で理解してもらえました。



左から、現地スタッフ デニス氏、後藤理事、藤井理事長、校長先生、コーディネーター ジョイス先生

来年2025年2月ボランティア派遣の協力依頼をしますと、校長先生から次のお言葉をいただきました。

RASAは常に日本人学生が、フィリピンの雰囲気や生活様式に浸れるよう支援していることを理解しました。謙虚でなければならないことを学ぶことは、全ての人にとって重要です。人生は物質的なものではありませんが、人生の本当の価値を学ぶことで、より意味のあるものになります。2025年2月に学生さん達がきますね。このプロジェクトを楽しみにしています。

ここでの活動は、食品配付や授業《食物の摂り方、衛生教育、日本語授業等》を学校の協力で行う予定です。ボランティア派遣に際し、ホストファミリー選択、滞在費、活動内容、学校の授業への協力、行楽ので予約貸切バスやバタンガスの海岸への下調べ等をデニス氏にお願いしました。これで、今回の訪問目的が果たせました。

コーディネーターのジョイス先生や他の先生方が、6年生や障害児童への学習指導をしていました。カブヤオ市はコロナ後、教育システムのIT化を進めており、児童達はWi-Fiが使える住環境は完璧ではありませんが、各自の工夫や周囲の協力で、生徒は支給されたタブレットを使って、先生からの対面指導を受けられるのです。先生は、生徒との直節質疑応答や理解の確認ができる、きめ細かな指導をされていることがわかりました。登校日数は減りますが、先生の負担は増えそうです。

12日はカブヤオ市立の大きなマーケットに出かけ、ラグナ湖で撮れたばかりの魚介類を買いました。

それらが昼食パーティーに出てきて、一家の人達との最後の食事となり、夜空港に向かい3時過ぎに到着。朝6時過ぎの離陸迄3時間待ち。昼過ぎセントレアに無事帰国しました。



支援対象児童たち

食品配付後に支援対象児童から、RASA宛に感謝の手紙やカラフルで作るのが大変だったと思われる工夫の凝らされた作品を受け取りました。「もっと支援数を増やしてほしい。他の友人も支援が受けられるように。」更に、「これからも対象者に続けて選ばれますように。」と丁寧に書かれていて、胸が熱くなり、この支援の継続と充実を目指そうと思いました。



児童から頂いた読み切れないメッセージとペーパークラフト

2023年8月～2024年6月 配付食品のご報告

フィリピンでは6月で学年度が終了し、夏休みに入りました。2023年8月～2024年6月の支援対象児童延べ280人への支援食品総量は下記のとおりです。

円安の影響を受けましたが、皆様のご支援で出来るだけ多くの食品を届けることができました。深く感謝申し上げます。

配付食品名	米	粉ミルク (33g/袋)	卵	缶詰	インスタント ヌードル
総量	14,000kg (14 t)	12,460袋	18,060個	8,400缶	3,780袋
1人当たりの 総量	100kg	89袋	129個	60缶	27袋

注)12月にクリスマスのお祝いとして、パスタセット(乾麺1.6kg ソース付)を臨時でお渡ししています

フェスタジュニーナ チャリティーバザーに参加

6月23日豊田スタジアムで開催され、午後から雨天の予報だったので、照る照る坊主に託して備えました。理事とその家族5人と友人4人、ボランティアOG3人の計12人で出店運営。OGの皆さんはRASAの呼びかけを見て、駆け付けてくれました。他は70歳以上の高齢者で、若い3人が最後まで揚げ物や販売で、休まず頑張ってくれました。このイベントは、ブラジルで毎年6月に国中で祝うお祭りで、日本でもここに在日のブラジル人があちこちから家族ぐるみで大勢集まりました。参加者には数回実施されるビンゴゲームで、BIGな景品が当たる楽しみがありました。

私たちは、今年は唐揚げ 24Kg(約240セット)、ハーブフランクフルト 100本、コロッケ 100個、昆布味キュウリ 150本と、昨年より多種多量の食品を準備しました。しかし午後から雨天となり、昨年の4,000人参加者と比べ、今年は悪天候が響いて参加者は昨年に比べかなり少なかったようです。どこの店も、余って何回も値下げを重ねて完売を目指しました。バザーを通じて、ブラジルの多くのお客様と言葉の

違いを超えた触れ合いや、ガス切れで揚げ物ができなくなって大ピンチに陥っていた時、他店のブラジル人が快く無償でボンベとガスコンロを提供してくださったお陰で危機を救われたことの感激は深く残っています。国は違ってもみんな友達！です。売上額 ¥95,000、収益約 ¥48,000。

ドミンゴス神父(大会の責任者)のご尽力で、このビッグイベントが実行されました。何度も様子を見に店に来てくださり、また準備から最後までお世話になりました。ご指示やアドバイスを本当に有難うございました。



フェスタジュニーナの様子

今後の活動予定

- 9月 8日 「地球愛祭り2024 in 愛知」チャリティーバザー参加 場所:愛三文化会館(大府市)
- 10月23日 チャリティーバザー 場所:カトリック平針教会
- 12月上旬 クリスマスチャリティーバザー参加 場所:南山大学 キリスト教センター

会員が減少傾向です！活動を支援いただける方、法人・団体を募集しています！

資料をお送りいたしますので、RASA-Japan事務局までご連絡ください。

※「遺贈によるご寄付」、「相続財産のご寄付」は、相続税が免除されます。お志のある方はご連絡ください。

※郵便局・ゆうちょ銀行では現金での払込に加算料金が必要です。詳しくは窓口でお問い合わせください。

RASA-Japanは皆様の会費と寄付金で運営されています



認定 特定非営利活動法人
RASA-Japan
理事長 藤井 忠子

〒468-0014 愛知県名古屋市天白区中平2-2627
TEL/FAX 052-803-1649
E-mail info@rasa-japan.com

郵便振替：口座番号 00890-4-31185
受取人 特定非営利活動法人RASA-Japan
三菱UFJ銀行：平針支店 普通 0037025
トクティヒエイリカソドウホウジンラサジャパン

クレジット決済はこちら



ホームページ
<http://rasa-japan.com>



@rasa_japan



@rasa.japan



@rasa_japan

